

祇園北高等学校 第2学年 国語科単元指導計画

1 単元名

『更科日記』『門出』

2 単元の目標

「日記文学」とジャンル分けされる『更科日記』の冒頭部分を読み、『更科日記』は本当に文学といえるのかについて考察することを通して、文学とはどういうものかについて自分の言葉で意義付ける。

3 単元の計画（全4時間）

時	主な学習活動
1	ボブ・ディランの詩や『更科日記』などの具体例を挙げながら、文学と文学でないものの境界線について、自由に意見を出し合う。
2	『更科日記』の冒頭の表現について、もし「私は」と書き始めた場合との違いについて比較することを通して、『更科日記』の自照性に気づくと共に、古歌等を踏まえた表現の効果について考える。
3	「九月三日」の「日の入り際の、いとすごく霧わたりたる」という情景描写に注目し、「もしこの描写が真夏の真昼の描写であったら、どう違うか。」について考えることを通して、情景描写と心情との関係について読み取る。
4	「文学とは何か」について自分の言葉で定義した上で、『更科日記』は本当に文学といえるのかについて考察する。→本時

4 本時の目標

「文学とは何か」について自分の言葉で定義し、それを根拠にして『更科日記』は本当に文学といえるのかについて考察する。

5 学習の流れ（4時間目／全4時間）

学習活動 (○発問、●予想される生徒の反応)	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 課題意識をもつ 第1時で出し合った意見を想起する。</p> <p>2 本時のめあて（課題）提示 ○『更科日記』は本当に文学といえるのでしょうか。「文学とは何か」について、自分の言葉で定義した上で、自分の意見を書いてももらいます。</p> <p>3 学習のまとめ 第2・3時で抽出した『更科日記』の特徴をペアで挙げてください。</p> <p>●冒頭で自分のことを第三者的に表現している。 ●三人称は途中で一人称に変化し、執筆態度が変化している。 ●古歌や源氏物語の表現をふまえて書いている。 ●晩年に少女時代の自分を回想して、自分を見つめ直している。</p>	<p>◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て ◇「文学と文学でないものの境界線について」第1時に自由に意見を書いたものを返却する。</p> <p>◆前時までのノートを見返しながら挙げさせる。</p>	

<p>●風景描写と心理描写がリンクしている。</p> <p>4 課題の提示</p> <p>○「文学とは何か」について自分の言葉で定義し、それを根拠にして『更科日記』は本当に文学といえるのかについて意見を書いて下さい。</p> <p>5 意見交流</p> <p>書いたものを4人で回し読みする。</p> <p>6 各自で自分の作文の手直しをする</p> <p>7 作文提出</p>	<p>◇作文のルーブリックを提示する。</p> <p>S 授業で出なかった新しい根拠を出すことや、深い考察を経て、自分の意見を論理的に述べている。</p> <p>A 根拠を示して意見を述べている。</p> <p>B 根拠があるが、意見とのつながりが弱い。</p> <p>C 意見だけ書いてある。</p>	<p>「文学とは何か」について自分の言葉で定義し、それを根拠にして『更科日記』は本当に文学といえるのかについて考察し、記述している。</p> <p>〔読む能力〕 (作文)</p>
---	---	---